

令和6年度 卒業式・修了式 学長式辞

「粗にして野だが卑ではない」この言葉は、国鉄五代総裁：石田礼助の言葉で、これをタイトルにして城山三郎が彼の生涯をノンフィクションで執筆しています。この言葉の意味は、「言動が雑で粗暴な面があっても、決して卑しい行いや態度を取ることはしない」ということです。私はこれを「高い品格」ととらえています。なぜ私が石田礼助の言葉を引用したかは、最後に述べることにします。

さて、学士・修士の皆様、卒業そして修了おめでとうございます。教職員を代表して、お祝い申し上げます。ご家族の皆様にも、心からお祝い申し上げます。

私は本学に赴任して5年になります。今はコロナ禍が治まり平時に戻っていますが、学部生も院生も少なからずパンデミック感染症の影響を被ったキャンパス生活だったと思います。この間、能登半島地震や台風災害もありました。

コロナ禍そして自然災害を経験した私たちは、普通の日常がどんなに大切なことを改めて思い知らされました。皆さんは、この通常ではなかった苦難をポジティブにとらえ、大学時代にそれらを乗り越えたからこそ今の自分があると言えるように、これからの社会生活で様々な挑戦してほしいと願っています。

近年のスマートフォンや人工知能：AIに代表される情報化・IT化の発展は、半導体が土台となっています。半導体に関して、日本は台湾のTSMCやオランダのASMLに水をあけられています。しかし5Gから6Gへの変換では、電気ではなく光を基礎とするIOWNの構築で、NTTやソニーなどが巻き返しを狙っています。政府が支えるラピダスなどを土台に、おそらく日本企業はもう一度世界のトップに立つでしょう。

産業革命以後の機械化・電力化そして半導体を基礎とする情報化の急激な発展は、私たちの日常生活を大変便利にしました。近年のチャットGPTやディープシークのような生成AIや自律AIを例にするまでもなく、IT関係の発展は加速度的です。しかし、その一方で、それらの発展は運動不足による不健康というマイナスの代償をもたらすことを忘れてはなりません。そこで重要になるのが「体育教育」です。今日、サステナブルな健康には、身体運動を理論と実践で支える、教養としての「体育」こそ重要だと言えます。本学の創立者：二階堂トクヨ先生が、100年も前に「女子体育」の重要性を見抜いていたのは、見事という他ありません。その意味で、皆さんはニチジョを母校にもつことを、誇りに

思えるはずです。

本日、卒業・修了する皆さんは、教員免許・保育士の資格を取得して教育に専念する人、スポーツ選手や芸術家としての活躍をめざす人、そして企業への就職を含めて、様々な進路を選択していると思います。

今、静かな心で式典に参列している皆さんに、冒頭のキーワード「粗にして野だが卑ではない」を、なぜ私が選んだかを伝えたいと思います。時々、体育大学の学生は、頭が筋肉で知的でなく粗野だと評されることがあります。しかし、スポーツやダンスにおける動きの巧みさは脳が司っているので、知的な活動です。

総合知を俯瞰してみると、知的活動の結果をペンやキーボードによる言語（文系）や数字（理系）という形式知で表現するか、身体全体による暗黙知で表現するかという2つに分けることができます。すなわち、身体運動も知的生産物なのです。そして、スポーツやダンスの世界でも品のある人は存在しますし、逆に、経済的に裕福であり、知識を豊富にもっていても、品がない人はいます。「品格と歴史は金で買えない」といったのは映画監督の黒澤明です。

品格は、スポーツ・ダンスも勉強も、納得いくまで修行をした結果として、身体に備えられる「教養そして心の余裕」ではないか、と私は思っています。ニチジョーOGには、社会に出てから、このようなプライドをもって品格ある立ち振る舞いをしてほしいと願っています。今年、私が皆さんに送る言葉は「品格」です。

最後に、ご臨席を賜りました来賓の皆様、保護者の方々、教職員と共に、卒業生・修了生を祝いたいと思います。卒業そして修了、おめでとう。

令和7年3月15日

日本女子体育大学
学長 深代 千之